

平成18年 11月

亀崎幸子 学位論文審査要旨

主 査 岸 本 拓 治
副主査 黒 沢 洋 一
同 池 口 正 英

主論文

Serum levels of soluble ICAM-1 and VCAM-1 predict pre-clinical cancer

(可溶性ICAM-1およびVCAM-1の血清濃度と臨床前癌の予測)

(著者：亀崎幸子、黒沢洋一、岩井伸夫、細田武伸、岡本幹三、能勢隆之)

平成17年9月 European Journal of Cancer 41巻 2355頁～2359頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は癌と診断される前の臨床前癌時の癌ケースとコントロールの血清中のsICAM-1、sVCAM-1を測定し、癌罹患の予測の可能性について検討したものである。その結果、sICAM-1ではなく、sVCAM-1が癌と診断される前の臨床前癌時の癌ケースで有意に高いこと、sVCAM-1の感度と特異度は比較的高いことを証明した。本論文の内容は、sVCAM-1が癌と診断される前の初期段階の臨床前癌のマーカーとして有用であることを示しており、癌の2次予防である癌の早期発見・診断方法に対する新しい知見を示唆したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。